

## ウィギントン気象週報アップデート——Feb.2, 2014

Dane Wigington (GeoengineeringWatch.com)

Feb. 3, 2014



やっと一般大衆は、雪がどうもおかしいと気づき始めた。化学物質の核をもつ人工の雪の嵐が、このところずっと普通の現象になっている。

もちろん、一般大衆が目覚め始めた今、権力機構に支配されたメディアと天気“予報”局は、ダメージ・コントロール（応急対策＝説明）のために必死になっている。大衆をうまくはぐらかそうとする主流メディアの武器は、ひたすらこの奇妙キテレツな雪を“通常”のもの、あるいは多分、大気中の“汚染粒子”によってできたものと、「公的な種明かし」をしようとしている。主流メディアの作り話マシンは、これまでに発見された他の多くの暴虐行為の説明と同じで、「すべて問題はない、心配はいらない、どうぞ安心して床につきなさい」というものである。インターネットの情報攪乱“隠れサイト”もまた、そのような試みに完全に歩調を合わせて、全国、全世界の人々から寄せられる真実そのままの観察事実を、間違いであるかのように言っている——これは予想された通りのことではないか！

ではこの雪についての確かな事実とは何か？ 前にも述べたように、吹雪が人工的に作られていることに疑いの余地はない。中国人ですら、ずっと前から、この種の人工雪を激しく非難している。それを信じない人は、“Chinese Scientists engineer snow storms”とググってみればよい。主流メディアでさえこのストーリーを取り上げた。中国政府は、彼

らの人工吹雪操作を公然と通知した——北京に10億ドル相当の損害を与える結果になるまで。その後、彼らは地下にもぐって、相変わらず気象変更や操作を続けた。我々の政府も全く同じことをやっている、なぜ信じられないのか？ アメリカの人工的な核の雪も、普通の雪のように溶けない。このことについて全く疑問の余地はない。私はこれを、北カリフォルニアで行った野外観察から確実に言うことができる。12月に我々の地域に降った、最後のひと塊りの人工雪は、所によって信じられないほど長い間、地上に残った。夜の気温が華氏40度代（摂氏4.4～9.4度）、昼間の気温が華氏60度代（摂氏15.6～20.6度）だったにもかかわらず、10日間、あるいはそれ以上、消えずに残った場所があった。池の上にこの材料から氷ができたが、それは氷点よりも遥かに気温が高かった3週間のあいだ、そのまま残った。テストの結果、極端に高いレベルのアルミニウムとバリウムが検出され、鉛まで発見された。では近年ミシガン湖に現れている、75ポンドもの氷の塊についてはどうなのか？ もちろんグローバル・エリート（イルミナティ、国際陰謀団）支配下にあるメディア機構は、これもまた「自然」現象にすぎないと片づけている。

アメリカの操作された嵐をいつも運んでいる運び屋はどうなったのか？ もちろんまだ働いている。操作された“冬嵐”「マキシマス」がやってきつつある。そして次の冬嵐「ニカ」も襲いかかろうと構えている。冬嵐のオンパレードが、今年のアメ리카の人工的寒さの“グラランド・フィナーレ”ともいべきものを準備しているようにみえる。来週の内に、天候メーカーたちは、ジェット気流を十分に調整し、上空の化学物質と金属を飽和状態にして、米南部48州のほとんどの、操作された“冷却状態”をつくり出すものと思われる。どれくらいの期間つづくだろうか？ 他のすべての人口冷却と同じく、そう長くはないだろう。2月1日、土曜日は、デトロイトでは雨が降り、テキサスでは雪が降った。アラスカでは、場所により華氏70度（21.1℃）近くまで上がり、最も暖かい1月の記録を更新したばかりだった。この惑星は急激に熱しつつあり、海の温度がそれを証明する。気象操作をする者たちが、いかに狙った陸塊の上空を、有毒金属や化学物質で完全に覆い尽くすことによって、気候メルトダウンを隠そうとしても、彼らは全体としての温暖化を、指数関数的に悪化させているだけである。

「ウェザー・チャンネル」の不正直な気象学者たちは、完全に操作されたものを、全面的に自然のものだとして誤魔化し続けている。彼らは、“冬嵐”に「温暖面」が伴うのは「正常なこと」だ、と我々を納得させようとしている。そしてもちろん「ウェザー・チャンネル」劇場は、冬籠りするグラウンドホッグの話に多くの時間を割いた（防寒指導？）。それを聞き逃してはならないだろう。もちろんグラウンドホッグは彼の穴に帰っていった。げっ歯類がこの完全に曇らされた空の下で、地上に留まっているはずがあるだろうか？ 実は、最近のどの日をとっても、北アメリカの空は、エアロゾル散布と/またはエアロゾル雲と自然の雲の混合によって、ほとんど完全に覆われている。

カリフォルニア旱魃は容赦なく続いている。ある最近の“嵐”が、北カリフォルニアに1/10インチの雨を降らせた。それだけだった。地面を潤すようなものではない。主流メディアは厚顔にも、カリフォルニア北部は「旱魃を免れた」かのような報道をした。気象操作をする連中は、来週の大規模な“人工冷却”のために必要な水分を得るために、すぐにも太平洋側北西部に、ある程度の湿気を送り込むものと思われる。時間がたてばわかることだが、この水分の多くはエアロゾル化され、人工クール・ダウンに使うために、もっと東へ移動させられるであろう。これはカリフォルニアでは、違いをもたらすほどの雨にはおそらくなれないということを意味する。

残念なことは、大多数の人々が、主流メディアからの言い訳を何でも受け入れ、頭に詰め込んで、あとは見ないようにすることである。彼らの多くは、自分の周囲で起こっていることなどは無視していれば、結局、最後はうまくいくだらうという幻想を、いまだに抱いている。これほど真理から遠い考えはない。現実には——完全なパラダイム転換を果たすべき我々のタイムリミットが、現在の見通しでは、すぐ目前に迫っており、それは日ごとに短くなっている。もし全員が協力して船の向きを、すみやかに変えなければ、我々は全員一緒に溺れ死ぬだろう。立ち上がって、この問題をよく知り、行動を起こし、意識を高める闘いに参加しなければならない。